

小松高校PTAだより第 89 号 ―養正が丘から未来を拓く―

校長 村井 浩昭

今年度、本校は「最後の入学生」108名を迎えました。高校三年生が、「最後の総体」、「最後の体育大会」、「最後の小松高祭」と表現するように、一つ一つの行事に、生徒たちは特別な思いを込めて向き合っています。私自身も校長として「最後の年」を迎えています。三学年が揃う最後の現小松高校の一年、そして、来年度から始まる新小松高校。この節目の年に関われることに深い感慨を抱いております。新たな歴史が始まる「最後の一年」を、全校生徒357名、教職員55名とともに大切に紡いでまいります。

PTA会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に深い御理解と温かい御支援を賜り、心より御礼申し上げます。竹林整備や総体応援など、様々な場面での御協力にも感謝申し上げます。5月6日のPTA総会では、すべての議案を御承認いただき、吉實勇治会長のもと、令和七年度のPTA活動がスタートいたしました。昨年度まで御尽力くださった旧役員の皆様にも、改めて感謝申し上げます。

生徒たちは18年という歳月を経て高校を卒業します。その歩みは、PTAの皆様にとっても愛情と努力の積み重ねの軌跡です。今年度のPTA活動目標「かけがえのない18年分の1年を未来へ」は、そうした思いを表現しています。学校としても、家庭、地域とのより強固な連携を築きながら、成長の集大成である高校時代を「未来への一歩」として大切に見守ってまいります。

さて、本校では、今年度の重点努力目標を「情理を尽くす 学び合い 高め合い 築き合い―伝統を継承し、養正が丘から未来を拓く―」と決めました。「情理を尽くす」は、相手への思いやりと社会的な道理を兼ね備えた誠実な態度を意味し、知的で協働的な高校生活を築いてほしいという願いが込められています。また、副目標「伝統を継承し、養正が丘から未来を拓く」は、県立学校振興計画により、「小松高校」「東予高校」「丹原高校」の三校が、令和八年度から新しい二校「小松高校」「東予総合高校」に生まれ変わることを踏まえたものです。現在、三校合同で西条市内十中学校の生徒・保護者向け説明会も進めています。この養正が丘から新しい希望に満ちた風を吹かせたいという思いで準備に取り組んでいます。

今年度の生徒会スローガンは「輝笑転結～笑顔が絶えない青春を～」に決定しており、どんな苦境でも前向きに笑顔で乗り越えようとする小松高生の意気込みが感じられます。第79回愛媛県高等学校総合体育大会には、総勢77名が出場し、男子バレーボール部と女子サッカー部は堂々のベスト4、男子テニス部もダブルスでベスト8となりました。男子バレーボール部は、四国大会出場を果たし、養正会の皆様や教職員の声援を背に一回戦を突破、二回戦でも一セットを奪うなど健闘し、ベスト8というすばらしい成果を残しました。昨年度は、県大会の壁に阻まれた競技も多かっただけに今年度は大きな前進が感じられる大会となりました。これから、野球選手権大会や吹奏楽コンクール等更なる挑戦の季節がやってきます。この『PTAだより』がお手元に届く折にはまた新たな感動が生まれていることを信じております。

最後になりましたが、生徒たちがそれぞれの舞台で力を尽くし、一步ずつ成長していく姿に、私たちは大きな希望を感じています。これからも、学校、家庭、地域が手を携え、生徒一人一人の夢や可能性を育ててまいりたいと思います。未来に羽ばたく小松高生たちと新たに始まる新校への歩みを温かく見守り、応援していただければ幸いです。